

教育目標		心身ともにたくましく 感性豊かに 主体的に行動できる子						
重点目標		① 児童一人ひとりが自己の良さを発揮し、ウェルビーイングを感じることができる学校 ② 教職員一人ひとりがそれぞれの力を最大限に発揮し、意欲的に働ける学校 ③ 保護者と「育てたい子どもの姿」を共有し、ともに歩むことができる学校 ④ 地域とつながり、地域の「宝」として子どもを育むことができる学校						
施策	実施施策の目標	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	①「主体的・対話的で深い学び」の実現のための取り組み(2(1)②) ②どの子にもわかりやすく安心して授業に参加できる環境づくり(授業のユニバーサルデザイン化)(2(1)①) ③「社会に開かれた教育課程」による学校、家庭、地域が連携した教育活動(2(5)②) ④ネットモラルの育成(2(3)③) ⑤英語教育等、新しい時代に活きる学びの推進(2(2)③) ⑥タブレット等の教育機器を活用した学習の推進(2(2)③)	①校内研究授業を年間計画に位置づけて実施する。 ②一人一授業を実施する ③「目指す子ども像」を学校運営協議会と教職員がともに協議することにより、児童の学び・弱みを共有し、授業改善に生かす ④日々の学習活動におけるネットモラルの指導及び情報活用の指導を行う ⑤ALTの活用を図りつつ、外国語で表現する活動を積極的に行う ⑥スクールタクトなど、タブレットを効果的に活用する	①校内研究授業4回実施 ②全教職員が一人一授業を行う ③④教職員、児童、保護者の3種のアンケートにおいて、学習や授業に関する質問に肯定的な回答が90%をこえる	B	①校内研究授業を4回行うことができた。 ②一人一授業を行っている。 ③④ ・児童アンケートで「授業はわかりやすく楽しい。」肯定的回答は72.2%だった。 ・保護者アンケートで「学校は、わかりやすい授業に努めていると思う。」肯定的回答は97.3%だった。 ・教職員アンケートで「研究・研修が授業に生かされているか」肯定的な回答は90%だった。 ・学習ルールについて、全学級で徹底させる必要がある。	・今年度学力学習状況調査から明らかになった課題をもとに、学力向上プランを作成、実行する。 ・学習マップを活用し、児童が主体的に見通しをもって学習できるようにする必要がある。 ・一人一人の子供に合った課題を設定するなど、課題の出方を工夫する。 ・意識して子供が自分の考えを表現する場を設定する。 ・作文やカード作りなどは、途中であきらめさせず、最後まで書かせる。 ・学習ルールを学校全体として共通で実施していく。	・校内研究授業の実施は教員の熱意と学校全体の研究意欲の高さを示し、子どもの授業の質向上に結びついている。 ・児童同士の交流を通して振り返りの質の向上を目指すことにより、より一層「主体的・対話的で深い学び」につながると感じる。 ・学習用タブレット端末の内容を保護者が把握するのが難しい。 ・児童アンケートの結果と保護者アンケートの結果にずれがあるが、数字にとらわれず、児童の様子をしっかりと見ていく必要がある。 ・不登校傾向の児童へのオンライン授業の実施など、タブレット端末のメリットをさらに生かす必要がある。 ・今後、AIの活用も見据えていく必要がある。
	豊かな心の育成	①人に優しくする心、美しいものに感動する心の育成(2(2)②) ②いじめは絶対に見逃さない、許さないことの徹底(2(2)③) ③自尊心、自己肯定感を高める声かけや指導の工夫(2(2)③) ④体験的な活動や地域の教育資源の活用(2(1)③)	①道徳の時間だけでなく、すべての教育活動において、道徳性を養い、主体的に行動する態度を育てる ②いじめを見逃さない土壌づくりといじめ発生時の初期対応の取組を行う ③年間3回のいじめアンケートを実施する ④登校しづらい児童への初期対応の取組を行う ⑤別室(「ほっとすルーム」)の効果的に運営する ⑥環境体験・自然学校や観劇会などの実施、また、日頃から体験を意識してカリキュラムを作成する	①児童アンケートで「学校で、自分を大切にすることや他の人への思いやり、社会のルールなどについて学習している」肯定的回答が90%をこえる ②いじめアンケートをうけて記載された内容を精査し、対応する ③「ほっとすルーム」利用児童による意見聴取において肯定的意見を得る	B	①児童アンケートで「学校で、自分を大切にすることや他の人への思いやり、社会のルールなどについて学習している」肯定的回答が86.5%だった。 ②いじめアンケートの記載内容を精査し、組織的に対応した。 ③「ほっとすルーム」利用児童からは、「来やすい、落ち着く」等の肯定的な意見があり、利用児童の出席数も上がってきている。	・日々の学級指導や道徳の学習を通して、自分を大切にすることや他の人への思いやり、社会のルールなどについて伝える。 ・有岡小学校いじめ防止等のための基本方針に基づいて、組織として取り組んでいく。 ・「ほっとすルーム」利用児童からは、「ほっとすルーム」をより安心して利用できる空間となるよう整備する。	・いじめの認知件数は多いが、いじめが見える状況・言える状況が作られつつある。 ・いじめ相談窓口を、いじめ基本方針に明示してはどうか。 ・「ほっとすルーム」が保護者の意見もいっただいて作られていることを広報していくべきである。また、学習の充実も必要であり、所属する教室で過ごせることを目指してほしい。 ・不登校児童への学習のタブレットによる配信の内容が適切であるかを確かめるべきである。 ・不登校児童に関して、進学先への引き継ぎをしっかりと行う必要がある。 ・日々の学級指導・道徳に加え、体験活動や地域資源を活用し「できた実感」を増やす取組をするように。 ・体育の実技の宿題が与えられているのがよい。 ・参観など、親子で睡眠について知る機会があったのがよかった。家庭の協力を求め、さらに啓発が必要である。 ・学級によって、給食の配膳の方法や量が違うことについて、研修等を行ってほしい。 ・給食センターなど、外部の方の話を聞くなどして、主体的に残食を減らそうという子どもへの心育でほしい。 ・残食に関し家庭への啓発が必要。
	健やかな体の育成	①自分の健康を考え、進んで体を鍛える児童の育成(2(3)②) ③生活習慣の確立(2(3)①)	①体育の授業を通じて授業の充実をはかる。(1年 102時間、2～4年 105時間、5.6年 90時間) ①休み時間に外で体を動かして遊ぶよう呼びかける ②給食時間や高学年の家庭科の授業を活用して栄養面の理解を図るとともに、給食における残食の軽減を図る ③睡眠の重要性について啓発を行う	①教職員アンケート「食育、衛生、運動など健康保持のための指導を行っているか」肯定的回答が90%をこえる ②給食残食率が昨年度を下回る	C	①教職員アンケート「食育、衛生、運動など健康保持のための指導を行っているか」肯定的回答が93.3%だった ②残食率は増加しているため、減らしていく声掛けが必要である。	・体育委員会の活動として全校で運動する機会を持つなどして、自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てていく。 ・睡眠に関し、より啓発し、児童が健康な生活を送れるようにする。 ・給食は、はじめに全部盛りきるなど、配膳方法を工夫し、児童が健全な食生活を送れるようにする。	・体育委員会の活動として全校で運動する機会を持つなどして、自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てていく。 ・睡眠に関し、より啓発し、児童が健康な生活を送れるようにする。 ・給食は、はじめに全部盛りきるなど、配膳方法を工夫し、児童が健全な食生活を送れるようにする。
	教育相談・支援体制の充実	①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①学んだことが生活の場生きる学習の推進(1(1)③) ②③児童理解への取り組み(重点項目)	①キャリアパスポートを活用し一人ひとりが目標を持って学校生活を送れるよう指導を図る ②③スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーをチーム学校の一員と捉え、連携を図る ④児童の様子や学級の様子を日々把握し、小さな変化にも早期対応に努めるとともに、保護者からの相談に真摯に対応する	①児童アンケート「学校で、給食・掃除の当番活動・学級の係活動・委員会活動などの仕事を頑張っている」肯定的回答が90%をこえる ②③教職員アンケート「児童理解に努め、スクールカウンセラーやSSWと連携し、学級指導に生かされたか」肯定的回答が70%をこえる	A	①児童アンケート「学校で、給食・掃除の当番活動・学級の係活動・委員会活動などの仕事を頑張っている」肯定的回答が90.3%だった ②③教職員アンケート「児童理解に努め、スクールカウンセラーやSSWと連携し、学級指導に生かされたか」肯定的回答が70%をこえる	・当番活動、学級の係活動、委員会活動などの仕事を、児童主体で取り組めるような活動を増やす。 ・児童の日々の生活の様子や発言に加え、アンケート等も活用して、理解に努める。 ・職員研修の機会や学校通信などを通じて、スクールカウンセラーやSSWをはじめとした相談機関の周知を、引き続き行う。
特別支援教育の推進	①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	①伊丹特別支援学校のセンター機能の活用 ②「個別最適な学び」に応じた指導の充実(ちがいを認め合い、学び合う環境の設定)(2(1)①)	①伊丹特別支援学校の巡回相談・コンサルテーションを依頼 ②特別な支援を要する児童への個別の指導計画の策定 ③特別支援教育の観点で気になる児童に関する研修を実施	①伊丹特別支援学校の巡回相談・コンサルテーションを必要に応じて積極的に依頼する ②教職員アンケート「特別支援教育」に関する質問の肯定的回答が75%をこえる	A	①伊丹特別支援学校巡回相談等やコンサルテーションを増やし、支援の方法について考えることができた。 ②教職員アンケート「特別支援部等は効果的に機能し、その推進を図っている」に関する質問の肯定的回答が93.4%だった ③教職員アンケート「全職員が特別支援教育に対する正しい理解と認識を深めるため研修をしたか」肯定的回答が96.7%だった。 ④個々の教育的ニーズは様々であり、それにこたえていく必要がある。	・引き続き巡回相談、学校コンサルテーションなど外部機関の助言や指導を受け、特別なニーズのある児童への関わり方を知る。 ・特別な支援の必要な児童の共通理解を一層深めていくため、部会や研修を通じて共通理解をする。また、ケース会議を用いて焦点を絞った協議の場を設定することで、さらなる活性化を目指す。	・学校全体で特別支援教育を推進していることや体制を整えていることがうかがえる。 ・個々のニーズに合わせてよりよい支援の方法や内容を工夫していくことがわかる。専門機関とつながりが、より重要となっている。 ・学級・教科での具体的な支援の定着と、個別最適な学びの見える化を進める必要がある。 ・支援が必要な児童について、保護者と目標や手立ての共有をより一層進めてほしい。
教職員の資質向上	①研修等の充実	①常に課題意識を持ち、自己研鑽に励み、教育実践を行う(1(3))	①研修会の実施 ・研究全体において全教職員の研究の方向性の共有する ・研究授業にかかわる事前研究及び事後研究において今年度のサブテーマの意味づけを図る ・夏季研修やありんこcaféにおいて資質向上を図る ・研修図書を読みあかせる	①教職員アンケート「授業の中で子どもに教える際、いろいろ工夫し、子どもにとって「よくなる授業づくり」ができたか」「研究・研修が授業に生かされているか」肯定的回答が70%をこえる	A	①教職員アンケート「授業の中で子どもに教える際、いろいろ工夫し、子どもにとって「よくなる授業づくり」ができたか」「研究・研修が授業に生かされているか」肯定的回答が76.6%だった ②教職員アンケートで「研究・研修が授業に生かされているか」肯定的な回答は90%だった。 ③ありんこcafé(校内自主研修)を、7回開催した。 ④教育に関する新しい情報を取り入れていく必要がある。	・研究・研修の参加を推進し、よくなる授業づくりを目指す。 ・校内自主研修を続け、経験や知識の共有をめざす。 ・総合教育センターからの情報を教員が確認し積極的に参加するなどして資質向上に努める。	・夏季研修や自主研修などが、授業に生かされていると感じられ、継続していくことが大切である。 ・全国的に教員が足りていない状況で、先生が元気になる研修を進めてほしい。職員同士のコミュニケーションを大切にすることが重要である。
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備	①学校運営協議会の充実(2(5)) ②学校・家庭・地域が「育てたい子どもの姿」の共有／「社会に開かれた教育課程」による学校、家庭、地域が連携した教育活動(2(5))	①年間4回の学校運営協議会を開催、事前にコア会議で協議内容を調整し、学校運営協議会における協議の充実を図る ②、今後の学校運営に生かすため、学校運営協議会と教職員の合同研修会を開催し、「目指す子ども像」を共有する	①学校運営協議会を年間4回実施する ②合同研修会で得た考えを令和8年度学校経営方針(案)に生かす	A	①学校運営協議会は年間4回実施された。 ②二年生の生活科では、保護者や地域の方の協力を得て、児童は地域への理解と愛着が深まった。 ③合同研修会の考えをもとに、令和8年度学校経営方針(案)を作成した。	・教職員や地域の方が共通理解を図った上で教育活動が行われるよう、学校運営協議会と教職員が合同で研修したり協議したりする場を設ける。 ・指導計画や学校の教育活動を学校通信等を活用して、広く地域に発信し、教育活動への理解と参画を得られるようにする。	・夏の合同研修会で、課題を共有できたのがよかった。引き続き、学校運営協議会委員と教員と一緒に考える場があることが重要である。 ・コミスクの活動を周知していく必要がある。 ・地域との連携が必要であることを、児童・保護者にもっと知ることができるようになる必要がある。 ・通信等を通じて学校教育活動のねらいや様子を知ることにより連携が一層進むと感じる。
	安全・安心な教育環境の充実	①子ども安全対策の推進 ②交通安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	①地域の特性をふまえた防災教育の充実(2(3)③) ②犯罪に巻き込まれない指導の充実(2(3)③) ③交通安全指導の充実(2(3)③) ④子ども安全対策の推進 ⑤子どもと向き合う時間の確保(2(4))	①各避難訓練をすべて実施する ①児童アンケートで「学校で、火事や地震・不審者から自分を守る方法を学習しているの、いざというとき、あわてず身を守るための行動ができると思う」肯定的意見が85%を超える。 ②③学級指導、学校朝礼等で児童の危機意識を高め、事故等が起こらないことを目指す ④業務改善委員会及び教育課程部会において、改善できる点を洗い出し、職員全体に周知を図る	①各避難訓練をすべて実施した ①児童アンケートで「学校で、火事や地震・不審者から自分を守る方法を学習しているの、いざというとき、あわてず身を守るための行動ができると思う」肯定的意見が80.1%だった ⑤教職員アンケートの「学校業務改善の取り組みは、良かったか」肯定的回答が86.6%だった	B	①各避難訓練をすべて実施した。 ①児童アンケートで「学校で、火事や地震・不審者から自分を守る方法を学習しているの、いざというとき、あわてず身を守るための行動ができると思う」肯定的意見が80.1%だった。 ⑤教職員アンケートの「学校業務改善の取り組みは、良かったか」肯定的回答が86.6%だった。	・朝礼や教室移動など、日常の教育活動の中で安全に行動したり、話を聴く態度を育てる。 ・各避難訓練において、各学級でも意義や身を守る方法を一層丁寧に伝える。 ・業務改善に取り組んで子どもと向き合う時間及び教材研究の時間を確保するとともに、児童が学習に取り組もうとするよう取り組む自主研修会を行っていく。

学校関係者評価総括
 ・授業研究や研修を通じ、教員が学び続けることが、児童の学力の向上や、授業に対する満足度、「学校が楽しい」と感じる児童の増加につながるものであることから、継続して教員の資質向上を目指していく必要がある。
 ・さまざまな場面で、教員によってやり方が違うということが生じている。教員がしっかりとつながって合わせるべきところは合わせていき、教育の充実につなげていく必要がある。
 ・不登校児童への学習の保障をタブレット端末等を効果的に使いつながりながら実施していくとともに、「ほっとすルーム」の運営にあたって保護者の意見を聞きながら環境を整えていく必要がある。
 ・学校運営協議会と学校がともに歩んでいけるよう、学校運営協議会委員と教員の合同研修など、情報共有や協議ができる場を継続して持つことが重要である。

次年度に向けた重点的な改善点
 ・児童が安心して学習に臨み、生きる力を身につけられるよう、学校教育の充実を目指す。その一つの指標として、児童のアンケート項目「学校に来るのが楽しい」「授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答の向上を目指し、児童の意欲が向上する授業の研究、教員の資質をさらに向上させることのできる研修を定期的に行っていく。
 ・学校教育目標に向かって、教員が丸となって児童を育成する姿勢を持つ。そのために、教員が揃えるべきところについて、学年会やパソコン上の校内掲示板等を通じて、情報共有を図る。また、学校教育活動における知識や経験など、ベテランから若手への伝承が途絶えないよう、意識して伝えていく場面を作る。
 ・不登校児童への学習の保障をタブレット端末等を効果的に使いつながりながら実施していくとともに、「ほっとすルーム」の環境を整え、学校生活がより充実するよう努めていく。
 ・引き続き、学校運営協議会委員と教員が同じ目線でともに有岡小学校の教育の充実を目指す。そのために、学校の目指す方向性、児童の実態につなげる力について、協議する機会を持ち、学校経営方針に生かしていく。